

全仏通信

発行所 三月号
全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ木(本願寺内)
電話 〇二九六九
〇八六六九
〇三一一三
振替 三三六〇〇
東京 三三七六〇〇
発行人 阿部徳信
編集者 伊東聖純
印刷所 ルンビニ社
一部 二〇円

新年度の事業、予算など

理事会、評議員会で決定

全仏では昭和四十一年度の、事業、予算案を決定する重要な、理事会、評議員会が各宗派、府県仏教会、各種団体より選出されて、いる評議員一〇五名(委任をふくむ)、うち、理事会は三十一名で、寄附行為にもついで合同会議になったことの了承を得て開会することになり、豊原理事長の全仏の新年度に対する新予算案、各種の事業について全面的に各位のご協力をねがいたいとの力強いあいさつに引つづき、議長に栗本俊道評議員を万場一致指命し開会され、全仏の前進と飛躍をのぞむ活潑なる意見が開陳された。とくに重要な会議として会議の内容を速記によって要点を下記のとおりご報告いたします。

定刻を二十分すぎ、阿部顕瑞総務部長司会をなし開会を告げ本日の評議員会の成立を宣言す。まず、豊原大潤理事長立って、本日御多忙中の処参会された皆様に対し感謝すると共に全日本仏教会の昭和四十一年度事業計画並びに予算の両案について御審議を頂きたい。直ちに議事に入り、第一項の議長を推挙致したいが之れに就て如何なる方法によつたら宜しいかを計り致したい。とのべ、参会者より事務総局一任の声あり、

理事長より指名させて頂きます。御迷惑ながら栗本俊道師にお願ひ致します、と述べ全員異議なく指名された。次に議事の第二項である議事録署名委員選出につき諮ら。たが、理事長一任の声があり、松原泰道師、草繁全弘師に指名決定された。議長栗本俊道師議長席に着き、栗本議長

明頂き度い。阿部総務部長手許にお渡ししてあります事業計画案に基づいて、局長に交りまして総務局第一項財団基金の拡充対策、本年も継続して行いたいと存じます。続いて組織局伊藤勝淳組織局長より、全仏の基本目標に則つて、一、第十四回全日本仏教会愛知大会を来る六月三、四日の両日、名古屋市の県民会館で開催する。二、全国都道府県仏教会々長会議の開催。三、地域別会議の開催へのしよう。四、地方仏教徒会議の開催。五、本年度施行されるやに思料される衆議院選挙対策。六、時局対策、とくに農地報償、墓地問題の継続と時局活動。七、機関誌「全仏通信」編集発行に関する研究及遂行等に極力全力を注ぎたいと説明、続いて国際局平林睦祐国際局長より、全仏の基本目標の線にのっとり、一、国際親善と世界平和実現のため、世界平和、仏基親善、諸宗教との提携のため、日本仏教使節団を派遣する。イ、ソ連、欧州、ベトナム、韓国、中国、印度仏跡巡拝団。ハ、第二回ハワイ花祭り大会。ニ、ベトナム仏教徒救援対策として慰問金品の送付。三、ダルマパーラ記念会館に対する協力。四、在日仏教系留學生交換会の開催。五、国際仏教運動の積極的展開。イ、来日各国仏教徒の歓迎接

韓国訪問 日本仏教使節団

昨年企画しましたが、日韓批准前であったため、本年に延期しました。戦後初の日本仏教各宗僧俗代表団の派遣により、両国の仏教による理解が深められ、親善が増進されんことを切望するものであります。各位がふるって御参加下さるようお願い致します。

記

- 一、期間 五月八日より十四日までの七日間
 - 一、費用 十三万円(含団費)
 - 一、日程 本紙八頁に掲載してあります
 - 一、締切 三月末迄に国際局へ申込むこと。
- 資料お送りします。

第二回 ハワイ 国際花まつり参加

日本仏教代表団募集

- 一、期間 四月四日より十二日迄
 - 一、費用 三十七万円程度
 - 一、経路 東京―ハワイ諸島―ホノルル―東京
 - 一、締切 三月二十日迄に国際局へ申込むこと
 - 一、参加 どなたでも参加出来ます。
- 主催 全日本仏教会

TEL (542) 二九六九
八六六六
(国際局)

待
ロ、在外各宗開教本部との連絡
ハ、在外宗教施設の返還運動
ニ、海外仏教徒向け英文伝道資料の配布
ホ、インド救難運動に協力

次いで文化局の日野照護文化局長より全仏の基本目標のつとめて、

一、仏教徒憲章の制定
二、文化会議の開催
本年度予定は、東京、京都、仙台

三、第十回全仏講習会開催
四、"仏教徒の教職員連盟"の結成
五、"全一仏教聖典"の編纂についてそれぞれ説明した。

次いで栗本議長より以上にて各局事業計画の発表がありました。何か以上について質問がありましたら御出し頂きたい。

近代仏教研究会 壬生照順師
事業計画を御聞きしたが国際局案として、印度仏跡、中国古刹巡拝団の派遣等は各宗派当りでも、ほとんど実現している。例えば臨濟宗や天台宗等でもその計画ありと聞いているがこうしたものを通りしてやれると効果ありと史料する。又色々羅列されたがベトナム仏教徒救済対策として慰問品の送付などを計画しておられるが、去る日に南ベトナム統一仏教会、ティック・ナム・チャウ師の来日の際の共同声明に対し、我々は何れ度も全仏に対しその善処方を要求して来たが何等の回答に接せず、更にはその共同声明の中に、アジヤアフリカ協議会の名も羅列されておることは誠に遺憾である、又ベトナム統一仏教会の性格の点にも

如何お考えか。ついで日本山妙法寺 佐藤行通師よりベトナム統一仏教会の性格については、自由主義国自体の特別の感覺を持って出来上ったものである上、世界仏教徒連盟と云うものがあるからこうしたもの出現は何かの誤いを伺える。
そもそも先般台湾で行われた華僧大会そのものについても宜しく認識を新たにしたい。
この華僧大会について、現地の新聞はこういう見方で報道してると、これを読上げられ、続いて、国際仏教伝道会 桜井栄章師より

先般来出ている共同声明についても、特に私は阿部龍伝前総務局長に注意をして善処方を依頼したのであったが誠に残念に思う。こうした場合について矢継ぎ早の発言あり、これに対して平林暁祐国際局長から、先般来各先生方の抗議文を拝見致し居り、これが、いきさつについて私なりの調査を各関係者に当って参りましたが、来日が当時短兵急の状況であり、且、又その時が全仏として役員交替の時でもあり、かと思しては放置しておく状況にもあらず、事務局としても、諸手続きを正式に実施すると云う時間的余裕もなき当時の模様を知り、私なりの解決としては、ミスも必らずしも無かったとは思料致しますが、共同声明の案が先方より出されて、唯對外儀礼と云う意味でこれを出したと云う処でありましたので宜しく御願ひ申します。とのべたが、壬生照順師より、重ねての質問であります。これを撤回して頂

きたい、と強く要望があった。
平林国際局長は、撤回すること云う処迄の処置は私としてすることはいらぬと思料致します。栗本議長「以上につき、此処で御計り致しますが、唯今迄の処評議員会であり、これを又理事会に計り更に評議員会に報告をする」と云う段階が正当であります。御見受けするところ業務の先生方も多しとします。この時間を省かせて頂いて、評議員会であり理事会である」と御承認頂きたいと思ひます(拍手)

同所で昼食と致し休憩となす。昼食後、再会され 豊原理事長は、引続いて昭和四十一年度財団法人全日本仏教会歳入歳出予算(案)に対して御審議頂きたい。御手許にお配りしてある書類によつて、当局の説明を願ひ度いとのべ、阿部頭瑞総務部長より、
表により年度歳入歳出を説明統いて総務局予算額の説明、ついで柳了堅組織部長が、表ののつとて同じく事業計画と併行して説明。
続いて、
伊東堅純文化部長、近藤隆敬国際部長よりそれぞれ説明をなした。

終つて豊原理事長より、以上の説明にて終りますがこれに対して御質問があれば承わり度いとのべ、
聖観音宗 清水谷孝尚師より
予算案の値上げは唯今総務部長の説明による諸物価の値上り等により良く了承したが、人件費の支出上昇も良く了承した、総予算が今迄より約三割上昇と云うことの経過についてお伺ひしたい。と質問あり、

事務総長黒田白純師より
阿部総務部長の申し上げた通り、物価の上昇により、且、又御指適の通り人件費としても据え置きが続きおりましたのでこれをお願ひしたわけでありまして総体の約三割方をお願ひ申したわけであり、この増額の方法としては値上げ分三割の半分を四大宗団に持って頂き残り半分を地域仏教会にお願ひ、この残りを各種団体に配分致したい所存であります。宜しく御了承頂いて御承認を願ひたいと思ふと答弁されたが、壬生照順師より
国際局の施策事項についての当局の姿勢について宜しく勉強の上対策に當つて欲しい、又文化局の事業計画の中に御見ました"一仏教徒の教職員連盟"の結成と云う処がありましたが、現在日教組などの教職員組合もあると云う処に考えを致さねばならぬと思ふとのべた。平林国際局長より、
唯今の先生の御主旨宜しく承知して善処して行きたい、また、日野文化局長は
唯今の御注意に対して誠に私は驚ろいたのでありますが、こう云う見方もあるのかと云う所であり、これは計画であり、右であるとか左であるとかの線は一切考へぬ所であり、御注意頂いてまいに勉強して参りたいと思ひたいとのべた。ついで
真宗大谷派 美濃部薫一師より
阿部総務部長の説明により色々判断としました。先づ第一に本予算の案にも更生予算を組まれる様な話もありましたが、負担金の追加など突然来るのは困る、

最近の例でもあるが先日全仏新年懇親会の時の様に宗務総長は承知していても実務家としてはすぐと云う時に困るから、補正予算のない様な予算の組み方をしたい。第二に同説明の中に全仏事務局にタイムコーダーを求めると云う話があったが、この点は皆忙しい方々であり、この様なことは考慮しては如何かと。第三に評議員会と理事会と云う本日の会であるが、議案であるとか或いはこうして印刷物を出席して配布されたのでは読む間もなし、審議するにいても大変、これは四、五日前にも各氏に送附してこの会に持参して来る様にして欲しい。第四に先程から共同声明に關しての話題も出ておりますが、こうした件に關しては専門委員制がおりますのでこうして問題の経験者をおくように強化拡充し、これらにまかすことが良いと思ひます。第五に文化局計画案中に仏教文化会議を実施すると発表がありました。今日の現況から見て「仏教と政治」と云うような議題をもって見ると思料すると述べた。終つて
阿部総務部長より、唯今の職員のプロポーダーの件については職員の人権軽視と云う様なことは決してない」と説明、桜井栄章師より
全仏は情報のタッチを良くして欲しい、どうも世界情勢にしる外の全員が知っているのに全仏だけが知らぬと云う結果によるものであったと思ふ。とのべた。

終つて、理事長より
以上をもつて理事会、並びに評議員会をとりまわして頂きます。長時間に涉り有難う存じました。と挨拶し、

以上をもつて理事会、並びに評議員会をとりまわして頂きます。長時間に涉り有難う存じました。と挨拶し、

以上をもつて理事会、並びに評議員会をとりまわして頂きます。長時間に涉り有難う存じました。と挨拶し、

新年度・事業計画、予算案など

全国宗務総長会議開催さる

一月二十六日京都西本願寺で

全仏では、さる二十六日午前十一時より京都西本願寺において常務理事会、引つぎ全国宗務総長会合同が開催され、昭和四十一年度の事業計画、予算案が審議された。

常務理事会は、豊原大潤、小野塚潤澄、金剛秀一、阿部龍伝、上野頼栄、華山恵光、米馬道断、片山日幹、荻輪英章、小林大蔵(代)松本徳明、山本杉の十二名が出席し、

豊原理事長が議長が議長となり、署名委員に片山日幹、小野塚潤澄両氏を指名し、会議に入り事務総局より事務総局および名局長、部長が所管事項について詳細に説明し意義なく承認されたが、午後一時より宗務総長会合同に合流し、有意義に午後五時終了した。議案および決議事項次のとおり

議 事

1 署名委員選出について

議長(理事長)一任で、片山日幹、小野塚潤澄の児師を指名、議長職務代行に荻輪英章師を指名、了承される。

2 議案及び決議事項

議案第一号「加盟団体の負担金に関する規程」一部変更につき承認を求めることについて

阿部総務部長説明。規程中「別表第一号」、「別表第二号」及び「別表第三号」一部変更を承認する。議案第二号 昭和四十一年度財

団法人全日本仏教会事業計画案 議案第三号 昭和四十一年度財団法人全日本仏教会歳入歳出予算案

一括審議。各局長及び部長説明 原案通り承認される。

議案第四号 加盟申請につき、承認を求めることについて

(1) 福島県仏教会 加盟承認される(一月二十六日付)

(2) 昭和同願会 審議の結果、保留

議案第五号 専門委員会委員選出について(P ページ掲載) 原案通り承認される。

新年の懇親をかね

関東甲信越ブロック会議開催

一月三十日箱根湯本で

さる一月三十日午後三時から、関東甲信越ブロック会議が、全仏および東京、神奈川、埼玉の各会長の発起により地元神奈川県が世話団体となつて、箱根湯本のホテル仙景において盛大に開催された。

協議会は倉持秀峰氏(埼玉会長)を座長にえらび、鈴木敏範氏(神奈川)の司会により進められた。まづ黒田事務総長より全仏の昭和四十一年度の事業方針を説明し

さらに府県仏教会の組織強化と全仏に対する協力方を要請するおきつにははじまり、各局長からも所管事業の補正説明に引つぎ各府県代表より寺院の権益問題、負担金等について活発な意見が開陳され有意義に六時に終了した。

引きつぎ新年の懇親会にうつりまづ高橋隆天氏(神奈川会長)が、われわれ府県仏教会は相互に提携し、地域活動をさかんにし、全仏をもち立て大いに前進しようではないかと力強いあいさつにはじまり、参加者全員が自己紹介をかためて意見の発表が行われた。

つづいて新年の懇親会にうつり、各都府県仏教会代表のあいさつがありとくに愛知県から出席の村瀬事務局長から第十四回全日本仏教徒愛知大会についての報告がなされ、全仏の強化策や地域仏教会の前進についての建設的意見が出され、なごやかなうちに有意義ある新年懇親会が終了した。

なお当日は、全仏当局長より黒田事務総長、伊藤組織、平林国際、日野文化各局長、阿部総務、柳組織各部長が出席した。

参会者は神奈川、東京、埼玉、静岡、群馬、千葉、栃木、愛知等の会長、事務局長や神奈川県仏の副会長、常務理事等三十数名で盛会であったが地元神奈川県仏では非常な熱意と世話にあたった。

昨年十一月号本誌に掲載されたベトナム仏教会との共同声明についての記事は、表現上に多少の誤解を生ずる向きもありましたが、これは単に儀礼的になされたのであります故御了承下さい。

黒田事務総長より、前々より御存知の件かと思ひますが橋本擬胤師のやつておられる印度に宝匡印塔落慶法要を実施せられるそうでありますが、これに関し岸全仏会長御出席とのことでありますので、これは本日偶々御出席の新谷寛成先生より御説明を頂き度、又、セイロン国政府より仏舍利が聖観音宗大奉納されると云う件についてこれも清水谷孝尚師より御説明を頂きたいと存じます。まづ、

聖観音宗、清水谷孝尚師より来る二月二十四日に東京を出発し比丘数名同伴にて三月十一日帰国でありましたので、何卒各位の御協力頂き度いとのおべ、ついで浄土宗、新谷寛成師が立って

宝匡印塔落慶法要が現地にて二月二十七日施行されるので来る二十四日岸門主一行二十名程渡印される、猶開眼供養に橋本師一行五十名にて渡印される。宜しく御協力の程をお願いしたいと協力方をのべた。

また豊山派小野塚潤澄師より岸門主が全仏会長として宝匡印塔落慶法要に御出ましになると云うことだが、之れに就て今日迄の経過をお聞きしたい。と質問あり黒田事務総長より

前々より話になつて居る日本寺建立とか国内に国際仏教会館の建立とかについては、国内仏教者としても中々意見のまとまりを見るに云う段階には立ちあたりませぬ。

この度の岸全仏会長の御出ましは、橋本師との関係もあり御出まし

しということになつたのであるが会長名で御出ましと云うことであるが、その経費の点であるとか、又その他附随することに一切全仏としては関係がないと思う、然し出発に對しての歓送会、又は歓迎会位は全仏としてははしなくてはならぬと思つて居る、この協力は惜しむことなしと考へて居る、と答弁した。

ついで豊原理事長より事務総局としても限りある事なので何かと不備の点多いと思ひますが、何とぞ皆様の御法愛惜しませないで欲しい、私自身に對しても同様、種々不服もあると思ひますが、宜しく御指導方を願ひたい。とのべ午後四時に閉会となつた。

全仏加盟記念

講演と音楽の会

四月二十四日 於岐阜市民センター

岐阜県仏では、四月二十四日一時半から岐阜市仏と共催で岐阜市民センターに於て参加者六千名にして盛大に開催する予定である。

講師は岸信宏全仏会長、山田靈林駒沢大総長、今東光中尊寺貫主、大谷光紹東本願寺新門主の四名で全仏加盟祝賀式、檀信徒部会発会式も行われ予定。

なお事務局からも所管局長が出席し、組織強化について懇談するほか東海ブロック会議をこの前後に開く予定になつて居る。

△ △ △

昭和41年度 財団法人全日本仏教会歳入歳出予算

歳入
1. 金 17,823,000 歳入予算高

歳出
1. 金 17,823,000 歳出予算高

歳入歳出差引残高なし

昭和41年度財団法人全日本仏教会歳入歳出予算

(単位 円)

| 科 目 | | | 予 算 額 | 前 年 度 予 算 額 | 比 較 ○増△減 |
|--------------|--------------|----------------|------------|----------------|-------------|
| 1. 負 担 金 | | | 16,328,000 | 12,148,000 | ○4,180,000 |
| | 1. 各宗派負担金 | | 14,618,000 | 10,858,000 | ○3,760,000 |
| | 2. 各団体負担金 | | 1,710,000 | 1,290,000 | ○ 420,000 |
| 2. 寄 付 金 | | | 1,300,000 | 500,000 | ○ 800,000 |
| 3. 未 納 徴 収 金 | | | 50,000 | 100,000 | △ 50,000 |
| 4. 基 金 果 実 | | | 35,000 | 35,000 | 0 |
| 5. 雑 収 入 金 | | | 100,000 | 400,000 | △ 300,000 |
| 6. 繰 越 金 | | | 10,000 | 10,000 | 0 |
| 歳 入 計 | | | 17,823,000 | 13,193,000 | ○4,630,000 |
| 歳 出 | | | | | |
| 科 目 | | | 予 算 額 | 前 年 度 予 算 額 | 比 較 ○増△減 |
| 1. 事 務 総 局 費 | | | 10,100,000 | 7,472,000 | ○2,628,000 |
| | 1. 人 件 費 | | 6,130,000 | 4,764,000 | ○1,366,000 |
| | | 1. 職 員 俸 給 | 3,990,000 | 3,330,000 | ○ 660,000 |
| | | 2. 諸 給 | 1,590,000 | 1,084,000 | ○ 506,000 |
| | | 3. 厚 生 費 | 350,000 | 200,000 | ○ 150,000 |
| | | 4. 退 職 積 立 金 | 200,000 | 150,000 | ○ 50,000 |
| | 2. 事 務 費 | | 1,970,000 | 1,408,000 | ○ 562,000 |
| | | 1. 借 館 借 室 費 | 600,000 | 450,000 | ○ 150,000 |
| | | 2. 通 信 費 | 850,000 | 470,000 | ○ 380,000 |
| | | 3. 消 耗 費 | 100,000 | 85,000 | ○ 15,000 |
| | | 4. 光 熱 費 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| | | 5. 備 品 費 | 150,000 | 150,000 | 0 |
| | | 6. 印 刷 費 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| | | 7. 雑 諸 費 | 50,000 | 33,000 | ○ 17,000 |
| | 3. 旅 費 | | 1,100,000 | 700,000 | ○ 400,000 |
| | 4. 関西事務局費 | | 900,000 | 600,000 | ○ 300,000 |
| 2. 総 務 局 費 | | | 2,532,000 | 1,741,000 | ○ 791,000 |
| | 1. 会 議 費 | | 1,182,000 | 741,000 | ○ 441,000 |
| | | 1. 理 事 会 費 | 272,000 | 81,000 | ○ 191,000 |
| | | 2. 評 議 員 会 費 | 110,000 | 110,000 | 0 |
| | | 3. 各 種 委 員 会 費 | 300,000 | 200,000 | ○ 100,000 |
| | | 4. 会 議 費 | 500,000 | 350,000 | ○ 150,000 |
| | 2. 共通事項処弁ヒ | | 300,000 | 250,000 | ○ 50,000 |
| | 3. 調査研究費 | | 300,000 | 200,000 | ○ 100,000 |
| | 4. 渉 外 費 | | 750,000 | 400,000 | ○ 350,000 |
| 3. 組 織 局 費 | | | 2,540,000 | 2,150,000 | ○ 390,000 |
| | 1. 組 織 強 化 費 | | 1,270,000 | 1,050,000 | ○ 220,000 |
| | | 1. 組 織 強 化 費 | 670,000 | 450,000 | ○ 220,000 |
| | | 2. 国内仏教徒会議費 | 600,000 | 600,000 | 0 |
| | 2. 時局対策費 | | 550,000 | 500,000 | ○ 50,000 |
| | 3. 弘 報 費 | | 720,000 | 600,000 | ○ 120,000 |
| | | 1. 機 関 紙 発 行 費 | 600,000 | 500,000 | ○ 100,000 |
| | | 2. 宣 伝 報 道 費 | 120,000 | 100,000 | ○ 20,000 |
| 4. 文 化 局 費 | | | 1,400,000 | 950,000 | ○ 450,000 |
| | 1. 文 化 会 議 費 | | 400,000 | 300,000 | ○ 100,000 |
| | 2. 教 化 費 | | 1,000,000 | 650,000 | ○ 350,000 |
| | | 1. 講 習 会 費 | 200,000 | 150,000 | ○ 50,000 |
| | | 2. 教 化 諸 費 | 600,000 | 350,000 | ○ 250,000 |
| | | 3. 資 料 作 成 費 | 200,000 | 150,000 | ○ 50,000 |
| 5. 国 際 局 費 | | | 1,060,000 | 760,000 | ○ 300,000 |
| | 1. 国 際 運 動 費 | | 1,060,000 | 760,000 | ○ 300,000 |
| | | 1. 世界仏教徒文化交流費 | 160,000 | 160,000 | 0 |
| | | 2. 国際仏教運動費 | 400,000 | 300,000 | ○ 100,000 |
| | | 3. 国際渉外費 | 500,000 | 300,000 | ○ 200,000 |
| 6. 雑 費 | | | 64,000 | 50,000 | ○ 14,000 |
| 7. 予 備 費 | | | 127,000 | 220,000 | △ 93,000 |
| 歳 出 計 | | | 17,823,000 | 13,193,000 | ○4,630,000 |

財団法人全日本仏教会
専門委員会委員

総務専門委員

井上 恵行 上野 徳隆
小熊 寛澄 小沢 照禧
木村 智広 古宇田亮宣
下宮 高俊 新谷 寛応
築山 定誉 源 玄英
美濃部薫一 望月 亮欽
山本 芳遵 吉井 淨仙
和久 博隆

政治専門委員

板橋 宥成 巖谷 勝雄
大島 忠雄 大塚 弘
大村 仁道 小笠原義雄
貝山 宣泰 狩野 獲麟
栗本 俊道 五島 宗宣
杉本 良智 高山 宥進
副永 芳雄 松田 明道
吉田 秀英

組織専門委員

朝比奈秀行 小野島元雄
岩本 昭典 大河内隆弘
金子 隆暹 北之内真龍
木全かず子 熊野 龍夫
近藤 英雄 郷 雲蔵
佐本 政治 清水谷孝尚
白川 良純 白山 亮一
静永 孝英 神野 真一
鈴木 敏範 竹柴 俊雄
谷 玄昭 新美 孝道
西本 悟作 能登 有兆
野々部利行 古屋 道雄
船口 暉子 山口 智光

国際専門委員

阿部 龍文 石坂 見一
今井 大彰 井坂 信興
岡野貴美子 長田 順海
加藤 良文 北川 教全
小谷 徳水 小宮 勝憲

阪口 祐瑞 桜井 栄章
菅原 恵慶 寺田 康順
中山 理々 永田 正義
五島 宣宣 西村 輝成
旗本 宏昌 平沼 とみ
藤井 真水 古坂 明詮
真柄 信雄 壬生 照順
細川 量雄 村野 宣忠

文化専門委員

石橋 益恵 伊藤 完夫
伊藤 道機 岩月 光金
内山 憲尚 雲藤 義道
長田 恒雄 金岡 秀友
紀野 一義 榊田 良供
小松原賢吾 榊藤 円立
榊原 帰逸 酒井 謙祐
塩入 亮連 菅原 鈞
常光 浩然 西 義雄
西沢 はる 早島 鏡正
別所 弘因 増永 靈鳳
真溪 義貫 摩尼 清之
鱒淵 正浩 山口貴美子
山本 周道

青少年専門委員

石上 智康 岩堀 至道
伊東 脩己 小野塚幾澄
桜田 賢霧 島田喜久子
杉谷 和男 原 善正
原 弘隆 北条 祐奪
峰岸 応哉 三輪美津子
谷萩 弘道 山田 一真

義輪前理事長を囲む会

全仏前理事長義輪英章師は、三月四日上京するが、この機会に全仏事務総局では「義輪英章師を囲む会」をこく内輪でひらき師の長年に亘る労をねぎらう。
会は三月四日午後六時から、東京築地の「スエヒロ」で、黒田事務総長以下局長、部長、主事らが集まって開かれる。

総務局
一、財団基金の拡充対策。本年も継続して行う。
組織局
「基本目標」
本会寄附行為第五条の事業目的たる各種仏教運動の実践および育成を中核とし、全一仏教運動を盛り上げ構成団体の強化を計り、もって時局に対処し仏教の対外的宣揚と団結を期する。
一、第一回全日本仏教徒会議愛知大会の開催(六月三日、四日)
二、全国都道府県仏教会々長会議の開催
三、地域別会議の開催へのしようよう

事業計画

(3) 目的
ベトナムで戦火熄まざる時にあたり、キリスト教等の代表者と会談し、宗教者の立場から訴える。
二、ベトナム仏教徒救援対策として慰問品を送る。
三、第二回ハワイ花まつり大会(国際)への参加。
四、韓国訪問日本仏教代表団の派遣。
五、印度仏跡中国古刹巡拝団の派遣。
六、ダルマ・パトラ記念会館に対する協力。
七、在日仏教系留学生交歓会の開催。
八、国際仏教運動の積極的展開。

昭和四十一年度財団法人全日本仏教会

一、地方仏教徒会議の開催
二、衆議院選挙対策
三、時局対策とくに農地報償、墓地問題の継続と時局活動
四、機関誌編集発行の事務
五、国際局
「基本目標」
本会寄附行為第五条の事業目的たる世界各国のWFBセンターおよび仏教諸団体との連絡、文化交流促進を中核とし、仏教による国際親善と世界平和実現を期する。
一、世界平和祈願、仏基親善、日本仏教団派遣
(1) 訪問時期 昭和四十一年一月月中旬より一ヶ月間
(2) 訪問先 ソ連・北欧・ローマベトナム等

(1) 来日各国仏教徒の歓迎接待
(2) 在外各宗開教本部との連絡
(3) 在外宗教施設の返還運動。
(4) 海外仏教徒向け英文伝資料の配布。
(5) インド救援運動に協力。
文化局
「基本目標」
本会寄附行為第五条の事業目的たる仏教文化運動の総合的企画および促進に基本目標を置き全一仏教運動に仏教文化運動を中心として対応せんとするものである。
一、仏教徒憲章の制定
二、文化会議の開催 東京・京都
三、第一〇回全仏講習会の開催
四、仏教徒の教職員連盟の結成
五、「全一仏教聖典」の編集

大谷派内局更迭
真宗大谷派では、さる一月三十一日の臨時宗議会で訓導信雄師が宗務総長に選出され、二月二日左記のとおり第三次訓導内局が成立した。
宗務総長 訓導 信雄
参 務 大谷 演慧
星 谷 慶縁
蓬 茨 祖運
奥 村 豪
古 賀 制二
天台仏青発会
一月二十六日寛永寺にて
現在各宗では各々正式に仏青があり横の組織をガッチリ結んで活発に運動を展開しているが、この度天台仏教青年会(谷玄昭代表)を発会することとなり一月二十六日六時寛永寺に於て会員六十名の参加で盛大に開会された。
会はず杉谷義周宗務総長より「宗祖大師の御精神を体して一層の奮起を望む」と述べ、大照見道・塩入亮忠師から祝辞があり、椎谷健孝道教団事務局長は「まず皆さん方の御相家の若い人を連れてきて初めましょう」と述べられ、九時盛大裡に散会した。
宗教法人法
付 行政不服審査法
本書は財団法人日本宗教連盟が編集発行したもので九十二頁の冊子であるが、寺院に備えるに、又は事務所にも必須のものと思えます。残部僅少ですが、希望者は左記に御申願願います。頒布価格は一部三十五円、送料二十円
東京都中央区築地三ノ一
全日本仏教会総務局。

第十四回 全日本仏教徒会議愛知大会 県体育館でマンモス大会

六月三日(金)・四日(土) 名古屋市中

仏教王国、名古屋市中に於てポストの数より多い寺院数、四千五百ヶ寺の愛知県仏教連合会は昨年九月に第十四回全日本仏教徒会議愛知大会を本年六月三、四の両日正式に大会を挙げる事に決定し、その後準備委員の話し合いが進められ、二月十日一時から愛知学院三階映写室に於て準備委員会竹田鉄仙会長以下七十名の役員の出席を得て、全仏本部からも七名の局長、部長が出席し開会された。

会は村瀬良彦大会事務局長の司会によりはじまり、木村正範準備委員長、竹田鉄仙会長のあいさつ、本部から稲田稔界総務局長、阿部龍伝全仏常務理事、伊藤勝淳組織局長、日野照護文化局長が各々あいさつをし、司会より別記の如き大会要項について説明があった。

「名古屋市内においてしばしば新興宗教の大会が開かれ、昨年は特に創価学会や立正佼正会の大会には三万名もの信徒が集まり、会場にあふれた参会者が場外にはみだす有様であった。第十四回の愛知大会はその動員力の点においても新興宗教に引けをとらない大会を開くことが念願である」と、また本年度の大会の特色、大会終了後の事業とし

「『釈尊をたたえるウエサカ祭の開催』これは県の仏教系学校が合同し

て毎年ウエサカ祭を開催して本年度で十回目を向かえるので、大会初日開会式の中にウエサカ祭の行事を盛りこんで開く。

『仏跡頭仰運動の実施』これは愛知学院の近くに覚王山日泰寺の仏舎利塔があるので全国から集まる参加者や、県内の方々共々、この際に踊揚する。

『光はすみすみまで運動の実施』県内には数多くの身体障害者がいるが、仏教徒会議に参加した全国の代表者に激励してもらい、障害者に心のともしびをともし運動『県仏教婦人会の結成』戦前には県の仏教婦人連合会があったが、現在はないので、この大会を契機に県仏婦を結成するよう運動する。

△ △ △

藤井日静師を退任

挨拶のため全仏当局者身延へ

さる一月三十一日全仏当局では、前副会長の日蓮宗管長身延山久遠寺法主藤井日静師下に在任中の御協力いただいたことに對し、お礼のあいさつのため黒田事務総長、柳部長がそろって上山し、藤井法主親下はじめ本山当局と懇談していろいろと全仏の前進策について話し合いがなされ、とくに山梨県仏の結成と加盟について協議された。

印度仏陀伽耶に宝篋印塔

岸全仏会長が現地で導師

印度の成道の聖地ブダガヤに宝篋印塔を建設する運動をすすめていた印度日本寺建設委員会(智恵宣会長)では、このほどようやく計画が円成したので現地へ代表団をおくり慶讃法要を行なうことになった。

この式典へ全仏会長岸信宏親下が出席し同式典の導師をとめることになったが、一行は二月二十四日十二時半羽田発の印度航空機で壮途につく。帰国は三月六日の予定。

なお岸信宏全仏会長の壮行祝賀パーティーは二月二十三日午後五時より東京築地本願寺で行なわれた。岸会長の随行長兼副団長として鶴岡隆玄師(全仏関西事務総長)が同行した。

盛会だった

セイロン独立記念レセプション

第十八回セイロン独立記念レセプションは恒例により、東京芝の

光輪閣で開かれ、外交団にまじって仏教界からも、孝道教団岡野正道夫妻、全日仏婦船口陣子、広瀬寿美、中山理々、浅草寺執事長網野有俊、塩入亮達、平林睦祐全仏国際局長(代理)、鈴木錦吾師ら十数名が参加し、歓談を交したが、総勢百五十名にのぼり盛会であった。

ネパール国立記念レセプション

ネパール国々立記念レセプションは二月十八日午後五時より東京麻布光輪閣で開かれ盛大であった。

全仏から近藤国際部長が出席し敬意を表した。仏教界からも孝道教団岡野統理夫妻ら多数が参加した。

ベトナム仏教徒救援対策

全仏が協議

南ベトナムにおける諸般の状況は益々深刻の度を深めているが、全仏では、二月十四日正午から、在日越南留学生を東京築地本願寺来賓室に招き、種々懇談を交すとともに、ベトナム仏教徒救援問題について熱心に協議した。

当日は全仏国際専門委員、事務総長以下各局長が出席したが、従来行なってきた方針の具体化が急がれている。

日本仏保の役員会

日本仏教保育協会では新年初の名誉役員の役員会を一月二十九日四時から東京私学会館に於て開催した。

にうつり山本すぎ参議院議員、全仏伊藤勝淳組織局長のあいさつがあり、次いで賀来琢磨師がジェスチャー入りの名演説で大変盛況裡であった。出席二十名。

盛大だった

全仏の新年懇親会

全仏では、一月廿二日午後一時から東京プリンスホテルで新年懇親会を開き参会者百五十余名で近來にない盛況であった。

会は黒田事務総長の開会のあいさつにはじまり岸会長の導師によって三婦依文の奉唱、会長式辞ついで高階前会長および自民党川島副総裁が出席されるはずであったが、かわって文部政務次官の中野文門氏の祝辞があり、ついで榎原舞踊団奉仕によるインド舞踊が行なわれた。

つづいて会食にうつり長井真琴博士の乾杯をもってはじまり、次々と各界代表の新年にあたり全仏の前進についての意見が発表され有意義に午後五時散会した。



セイロン国から 浅草寺へ仏舍利

三月十八日盛大な奉迎式典

聖観音宗浅草寺(清水谷恭順貫主)では戦災で焼失していた五重塔の復興を計画していたが、今回セイロンから仏舎利の奉迎を得て復興運動を推進することになった。

仏舎利を迎える同寺代表団は、二月二十四日十二時三十分羽田発の印度航空機でデリー、カルカッタ、マドラス経由でセイロン入りするが、仏舎利贈呈式典は三月七日古利として由緒あるイスラムニア寺院において同寺に保管してある仏舎利が贈られることになっている。浅草寺の代表団は清水谷恭順貫下を団長とする総員十五名で、セイロン側代表団を伴って、三月十一日午後八時四十分羽田着の日航機で帰着するが、セイロンの代表団は約十日間滞在し、関西方面の各本山を参拝する。

三月十八日には仏舎利奉迎大法要が浅草寺において盛大に挙行され、夕刻から赤坂のホテルニューオータニにおいてセイロン代表歓迎レセプションが開かれることになっている。なお清水谷恭順貫浅草寺貫主を団長とする浅草寺代表団は、セイロン代表団を伴って国内を巡回するが、セイロン側一行は同月二十日午後三時十分羽田発に名は次ので帰国する。セイロン代表団の氏とおり、
○セイロン 文化局長オースチン、チャヤワルデナ氏

○イスラムニヤ寺院サンガラキタ ナヤカ長老
○同寺院カッチャコディ・ダンマ ラタナ長老

○随員 ハーバート・デ・シルバ氏
全仏では浅草寺代表団の難日に際し、団旗を授与すると共に、セイロン文化大臣あてに岸会長名によるメッセージを託したが、また同代表団の滞日中の便宜供与方の依頼状を関係各宗へ発送するなど種々協力をなした。

なお浅草寺では二月十八日午後五時半より東京赤坂のホテルニューオータニで盛大な壮行会を行ったが、全仏から平林国際局長が出席し激励の辞をのべた。

第十回全仏講習会

日時 昭和四十一年三月二十八日・二十九日
二日間(午前十時より午後四時半まで)

場所 中央区銀座七ノ一 ヤマハ・ホール
講題及講師(交渉中)

一、創価学会諸問題について
東洋大学 高木 宏夫氏
日蓮宗務総長 片山 日幹師
立正佼正会長 庭野 日敬師
真理運動主幹 友松 円諦師

外 教 治 家
二、南ベトナム問題について
外務省南東アジア課

朝日新聞 松本 事務官
大正大学理事長 松本 徳明氏
臨済宗師家 大森 曹玄師
政 治 家
外 費 五〇〇円(一般)
二〇〇円(学生)
詳細は追って発表する

全仏に期待するもの

野依秀市氏の世界仏教誌に客年十月仏教革新号が発表され六十余名の方々がそれぞれ実行の出来るものを想定して? 発表されたが彼の各人各様の御高見を整理抜萃煎じ詰めた結論を世界仏教社に発表せられたく要望しておいたが結論がまとまるか如何か、直ちに、着手の出来る革新の道は在り得ないかと察し

汪生は現仏教団体の在り方をそのまゝとして、これを大中に援護する為に数十億の財団を作りその利子を以て、全国民に仏教を講じて貰う道を講じ度い年来宿願の文書伝道の筋書きを上げておいたが、財団を作ることは又これは容易でなく空論の類であることは否定しなけれども、財団は財界人を代表者として、利子を使って

全一仏教運動についてこう考える

能 登 宥 兆

仏書を無料配布する仕事は全仏で行う、これを配布するものは全国七万の寺院教会とする構想の下に、これが基礎造りについて全仏は真剣に考えて見る気にならないか、

財界人の応援を得るについては唯空拳で懇請しても首肯して下されないで先づ全国寺院が可然何億かの結果を行って実意を見せなければならぬ処に一つの難関が在ると思うのでこれが主体となる信用の在る柱が造られなければならぬと信ずるので全仏は顧問会なり臨時重要人師を集結して相談して見る気はないか、

尤も文書無料配布で仏教を識って貰うことはつまらぬことであり不可能な筋があり仏教興隆にはならないと云うなれば論は別である。より以上な道筋を示して貰い方向を指示して貰い度い。

各主要都市に仏教センターを造る持論を耳にするけれども収支のバランスの取れた経営論は道があるとしてこれを運営しても仏教理論を全国民に普遍せしめることはこの次となる仏教センターに莫大な資金を要する横道を行わなければならない遠廻りをする事となり、又運営に適任者が在り得る処もあり適任者の得られない処も生じると思う。(神奈川県仏事務局 長)

全日仏青代議員会で
世界仏青大会参加決議
本年五月二十八日から六月四日にかけて、南ベトナムのサイゴンを中心にユエ・ダラトで開催される、第一回世界仏教青年大会に参

加するか否かを討議する協議は全日仏青(大谷光昭会長)の国際専門委員会等で数次行われて来たが、二月十七日午後二時から東京築地本願寺で開催された、全日仏青最高決議機関である代議員会が、めでたく大会に参加することが賛成者多数を以て決定された。当日は大谷光昭会長、石上理事長をはじめ役員、代議員約四十名が集り、新役員を選出も協議された。

全日仏青では国際専門委員会の陣要を強化し、混頓たる国際問題に対処してゆく方針であるが、当面、英文による会報の発行、海外仏教徒との積極的交信等を具体化するもようである。

黒田・石附両師
ワット・バクナムへ入る
既報のとおりタイ国仏教実践のためバンコック入りした黒田武志石附両師は、二月十日バンコック市のワット・バクナム寺へ入山し、向う三ヶ月間に亘り厳しい小乗仏教の研鑽にあたることになった。師の宗教的結実を祈念してやまない。

なお両師のため同市の日本人会はこぞって応援しており、またWFBタイ本部も身許引受人となるなど協力している。

日本東南アジア学生親交会代表出発
早大、立大、上智大等の学生よりなる「日本東南アジア学生親交会」代表団は、南ベトナムの苦しめる人々を慰めるため、二月二十四日空路東京を出発し、約二ヶ月に亘りサイゴンを中心にユエ・ダナン方面を視察する。

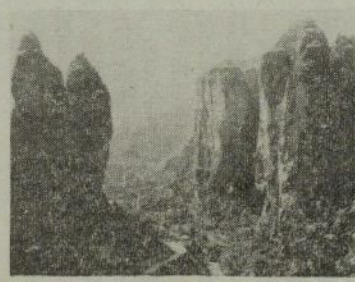
早大、立大、上智大等の学生よりなる「日本東南アジア学生親交会」代表団は、南ベトナムの苦しめる人々を慰めるため、二月二十四日空路東京を出発し、約二ヶ月に亘りサイゴンを中心にユエ・ダナン方面を視察する。

日韓仏教親善視察訪問団日程表

| 日次 | 地名 | 時間 | 利用便 | 行程 | ホテル | 日次 | 地名 | 時間 | 利用便 | 行程 | ホテル |
|---------------------|-----|-------|-------|--|--------------------------|-----|-------|-------|---|---------|-----------------|
| 第1日 5月8日 (日) | 大阪 | 12:30 | 大韓航空機 | 大阪国際空港に集合出国 手続後大韓航空機背景に て花束贈呈並記念撮影 | 半島ホテル | 慶州 | 14:00 | | 海印寺発 太郎館由 慶州着その間慶州市内 博物館、五陵、星台、 量寺等新羅時代の古跡 観光 | 東萊観光ホテル | |
| | | 14:00 | | 大韓航空機にてソウルへ | | | 仏国寺 | 18:00 | | | |
| | | 16:25 | | 金浦国際空港着 | | | | 19:00 | | | 仏国寺観光ホテル |
| | | 18:00 | 専用バス | 市内ホテルへ | | | | 10:00 | 専用バス | | 仏国寺出発 釜山に向 う |
| | ソウル | 19:00 | | 歓迎パーティ | | | 12:00 | | | | |
| 第2日 5月9日 (月) | ソウル | 09:20 | 専用バス | 大韓仏教曹溪宗総務院礼 訪 | 同上 | 釜山 | 07:00 | | (日の出)石窟庵、仏国 寺巡拝(希朝者限) | 東萊観光ホテル | |
| | | 10:00 | | ソウル 特別市長礼訪 | | | 08:00 | | 期食 仏国寺観光ホテ ルで | | |
| | | 10:20 | | | | | 10:00 | 専用バス | 釜山に向 う | | |
| | | 11:00 | | | | | 12:00 | | 途中梵魚寺巡拝 | | |
| | | 11:20 | | | | | 13:00 | | 中食 香苑(日本食) | | |
| | | 12:00 | | | | | 14:00 | 専用バス | 釜山着 慶尚南道知事 及釜山市長礼訪 | | |
| 12:00 | | | 17:00 | | 釜山市内見物水産セン ター松島等観光 | | | | | | |
| 12:00 | | | 13:00 | | 東萊観光ホテル(国営 温泉ホテル)にて一泊 | | | | | | |
| 13:00 | | | 14:00 | | | | | | | | |
| 14:00 | | | 14:00 | | | | | | | | |
| 14:00 | | | 14:00 | | | | | | | | |
| 14:00 | | | 18:00 | | | | | | | | |
| 第3日 5月10日 (火) | ソウル | 07:00 | 専用バス | 市内半島ホテル出発 金 浦国内空港へ | 仏国寺ホテル | ソウル | 09:00 | 専用バス | 日本人墓地調査並びに 国連軍墓地参拝 | ウォーカーヒル | |
| | | 08:30 | | ソウル発 太郎着 | | | 12:30 | | 中食 | | |
| | | 08:15 | 大韓機 | | | | 13:10 | | 釜山(水宮)飛行場発 | | |
| | | 09:20 | | | | | 14:10 | 大韓機 | 金浦国内空港着 | | |
| | | 11:20 | 専用バス | 海印寺着 | | | 15:30 | 専用バス | ウォーカーヒル到着 | | |
| 12:00 | | | 13:00 | | | | | | | | |
| 13:00 | | | 14:00 | | | | | | | | |
| 13:00 | | | 14:00 | | | | | | | | |
| 14:00 | | | 14:00 | | | | | | | | |
| 第4日 5月11日 (水) | 慶州 | 07:00 | | | 同上 | 釜山 | 09:00 | 専用バス | 日本人墓地調査並びに 国連軍墓地参拝 | ウォーカーヒル | |
| | | 08:00 | | | | | 12:30 | | 中食 | | |
| | | 09:00 | | | | | 13:10 | | 釜山(水宮)飛行場発 | | |
| 第5日 5月12日 (木) | 釜山 | 09:00 | 専用バス | 日本人墓地調査並びに 国連軍墓地参拝 | 同上 | ソウル | 15:30 | 専用バス | ウォーカーヒル到着 | 半島ホテル | |
| | | 12:30 | | 中食 | | | 15:30 | | | | |
| | | 13:10 | | 釜山(水宮)飛行場発 | | | 15:30 | | | | |
| 第6日 5月13日 (金) | ソウル | 09:00 | | | 同上 | ソウル | 09:00 | | ウォーカーヒル出発 | 半島ホテル | |
| | | 11:30 | | | | | 11:30 | | 板門店 38度線視察 | | |
| | | 15:30 | | | | | 15:30 | | ソウル到着 自由時間 | | |
| 第7日 5月14日 (土) | ソウル | 08:00 | 専用バス | ホテル出発 金浦空港 着 | 同上 | 金浦 | 08:00 | 専用バス | ホテル出発 金浦空港 着 | 半島ホテル | |
| | | 11:00 | | | | | 11:00 | | 金浦空港出発 | | |
| | | 12:15 | | | | | 12:15 | | 大阪空港着(解散) | | |

中国、欧州へ訪問団

全仏では本年度事業方針にの
り種々事業をすすめているが、
国際局では一頁に掲載した如く、
各国へ仏教使節団をおくり、仏教
による国際親善増進と世界平和、実
現に寄与することになったが、す
でに企画されているものに次の事
業がある。加盟宗派、県仏団体は
勿論のこと僧俗一体となってこれ
に参加することを全仏では切望し
ている。



(写真) 中国の天台山

**一、中華人民共和国仏跡
巡拝団**

記
期日 八月中旬から九月初旬まで
費用 三十八万円程度
訪問先 広州、杭州、天台山・西
安、北京、香港等
締切 六月末日迄に国際局へ申込
むこと。
どなたでも参加出来ます。

**一、仏基
親善欧州各地訪問
日本仏教代表団**

期日 九月下旬から十月初旬まで

費用 三十七万円程度

訪問先 アムステルダム、ロンド
ン、ブラッセル、パリ、ジュ
ネーブ、ミラノ、ローマ等
各地でキリスト教指導者と
会見し、平和問題につき懇談
し幼稚園、保育園等も視察す
る。

締切 七月末日迄に国際局へ申込
むこと。どなたでも参加出来
ます。

一、印度仏跡巡拝団

期日 十一月中旬から二十二日間
費用 四十七万円
訪問先 バンコック、カルカッタ
ガヤ、サルナート、デリー、
アヂェンタ、香港等

締切 九月末日迄に国際局へ申込
むこと。どなたでも参加出来
ます。

**主催 全日本仏教会
国際局**

東京都中央区築地三ノ一
電話(542)二九六九番
八六六六番

編集後記

△新年度予算、事業計画も決定。
事務局は各部とも多忙な日々。
△ベトナムの戦火益々熾烈。民衆
の願いはただ「戦争終結」にあ
る。日本仏教徒として何らかの
救援方策を具体化するべく、国際
局は苦慮。

△ハワイ花まつりは昨年ひきつ
づきホノルルで開催予定。
△韓国へは戦後初の各宗合同の友
好訪問団を派遣すべく準備中。
各位の御参加を切望。